



ゆれ 偏愛症

1,3,4,5,7,9,10,11 vocal by Hatsune Miku
2,6,8,12,13 vocal by Megurine Luka

songs, arrange & words by MasudaKaoru

1,5,12 words by yukiwo

2 song by Lady John Douglas Scott

2 word by William Douglas of Finland

4 word by Gripen

13 word from William Butler Yeats "The Wanderings of Oisín and Other Poems"

all instruments & all programming by MasudaKaoru

1,5 vocaloid programming by yukiwo

jacket design and illustrated by Royal Roppo-zensho

design by MasudaKaoru

Recorded & Mixed at KIKI Studio

Mastering by MasudaKaoru

Produced by MasudaKaoru

MasudaKaoru (うみぬこP、あすは)

<http://www.nicovideo.jp/mylist/10486785>

<http://masudakaoru.bandcamp.com>

yukiwo

<http://www.nicovideo.jp/mylist/8034126>

ロイヤル六法全書

<http://loyalzensyo3.bandcamp.com/>

<http://www.nicovideo.jp/mylist/36589205>

<http://www.nicovideo.jp/mylist/37721118>

ゆうくれ偏愛症 / MasudaKaoru

- 1 ラスモア
- 2 Annie Laurie
- 3 見知らぬ雲見知らぬ街
- 4 空の晴れたときが好き
- 5 八月のまぼろし
- 6 きみとぼくがいた夏
- 7 小さなしあわせ
- 8 ジルベール
- 9 かぜのもり
- 10 うみのもり
- 11 銀色の
- 12 わたしはうみ
- 13 Down By The Salley Gardens

1 ラスモア

words by yukiwo

約束したわけじゃないけど
自然とこの場所に居たよ
キミの歌をうたうことを
長い間待ってたんだ
いま願いが叶った

あー吹き渡る
あー風にのせて

心がつぶれそうなきには
あの丘にのぼって
ラスモアの花を摘んで
おまじないを唱えてた
なんどもくりかえして

いつのひか
さよならを
いうのかな？
でもいまは……。

約束したわけじゃないから
きっとこれは必然だよな
キミの歌をうたうことが
こんなにもうれしい
やっと願いが叶った

あー吹き渡る
あー風にのせて
あー遠くまで
あー風にのせて

2 Annie Laurie

words by William Douglas of Finland

Max Welton's braes are bonnie
Where early fa's the dew
And 'twas there that Annie Laurie
Gave me her promise true.

Gave me her promise true
That ne'er forgot shall be

And for Bonnie Annie Laurie
I'd lay me doon and dee.

Her brow is like the snowdrift
Her nape is like the swan
And her face it is the fairest
That e'er the sun shone on.

That 'ere the sun shone on
And dark blue is her E'e
And for Bonnie Annie Laurie
I'd lay me doon and dee.

translated by MasudaKaoru
マックスウェルトンの丘は美しい
朝早く露にぬれる
あの丘でアニー・ローリーは
ほくに誓ってくれた

ほくに誓ってくれたんだ
絶対に忘れたりしないよ
かわいいアニー・ローリーのためなら
ほくは死んだっていい

額は雪が積もったように
首は白鳥のよう
彼女は最高に美しい
日の光に照らされて

日の光に照らされて
その目は眩い青色
いとしいアニー・ローリーのためなら
ほくは死んだっていい

3 見知らぬ雲見知らぬ街

街が濡れる静かな午後には
キミのことを思い出す
水に濡れた舗道
どこか遠い雨降る街では
まだ出会ったことのない
キミが微笑んでる

見たことのない
けれどよく知ってる
キミのいる場所へ
きっと いつか

帰りたいよ
いつも願ってる
どこか分からないけど
自分の場所へ

窓の四角 切り取られた空の
かけらの向こう側にある
雲をいつか見た

見たことのない
けれどいつも仰いだ
空のある場所へ
きっと いつか

帰りたいよ
いつも思い出す
どこか分からないけど
自分の場所へ

見知らぬキミ
見知らぬ雲

帰りたいよ
いつも思ってる
どこか分からないけど
自分の本当の場所

帰りたいよ
キミのいるところへ
どこか分からないけど
自分の場所へ

見知らぬ街
見知らぬ空
見知らぬキミ

4 空の晴れたときが好き

words by Gripen

やっぱり わたしは
空の晴れたときが好きで
ずっと わたしだけは
晴れた空を探してる

いつも歩く 並木の遊歩道
すれ違う あなたの姿 照れながら挨拶
今日の始まりが 軽やかになっていく



きつと あなたには 普通の朝たけど
わたしだけ 楽しんでる 朝の挨拶でも
今日の わたし 元気になれる

やっぱり あなたは
空の蒼さを 持っている
見ている わたしだけが
晴れの気分を貰ってる

どこか 遠く 歩いてるときに
いつもなら 知らない街
それだけのはずなのに
夕日に染まって 想い出と重なってく
(風景) それが辛くても

ゆっくりとね 歩いてく
1人でも 歩いてく
ゆっくりとね 1人さり

やっぱり わたしは
空の晴れたときが好きで
ずっと わたしだけが
晴れの空を探してる

遠くに飛んでく
わたし1人だけの想い出
やっぱり あなただけは
空の蒼さより 澄んでる

5 八月のまぼろし

words by yukiwo

今日だけでいい
ほくのそばで
うたをうたって

黙ってるから
ほくのためにだけ
うたをうたって

(月あかりで 追いかけて)
(暗いひとみで 見つめた)

遠い約束
跡形もなく
波の喧騒

触れたりしないから

汚したりしないから
ほくはさうか
あちこち転がってる

(夢にまぎれて 待ってた)
(息をひそめて)

月に手が届くと言ったきみ
遠すぎるよと目を伏せるぼく
ねえ、またあの八月がくるね
君が壊れた、あの夏だよ
あの、夏。

まぼろしの日々
よせあつたら
なんてきれい

今だけでいい
こんなぼくのため
うたをうたって

(満ちてく海を 見つめた)
(さわられないうちに ここを離れよう)

6 きみとぼくがいた夏

茜の雲が 闇色に染まる前に
帰ろう帰ろう きみの待つ家まで

遠く遠く歩いて 緑の夏を歩いて
知らないあいだに 遠くまで歩いて

前髪さやめく 夏の風は気紛れ
眠ろう眠ろう きみの夢みるまで

深く深く沈んで 緑の海のそばまで
知らないあいだに 深い夢を見てた

いつかいつか忘れた きみの顔思い出した
あの夏の日々を きみとぼくの夏を

帰ろう帰ろう きみの待つ家まで
遠く遠く歩いて 緑の夏を歩いて

7 小さなしあわせ

ざわついた街角で
ボクは見つけたんだ

行き交う人に蹴飛ばされ
あちこち転がってる

休む間もなく
汚れた埃にまみれて
誰のものでもない
あちこち転がってる

ふと気づいたら
ボクの足元に転がった
ごみをじっと見ていたら
気づいたんだ

その小さなごみは
ボクを作る大事な
一部だってことに
ごみを拾い上げ

胸に押し付けると
ごみは体に入ってしまった
ぼくは満たされて
小さな幸せを見つけた

8 ジルベール

ジルベール、君の肌は
新雪におおわれた象牙のように

唇が君の未发育な
花に優しく触れると

八月の眩い日の浜辺に
打ち上げられた海月のように

小刻みに身体を震わせる
悪魔の囁きに秘めた

冷笑と誇りと恥らい
ジルベール、君は

9 かぜのもり

街のはずれ
風の森で
あなたと出会ったんです
あの日

はじめて見た
あなたはなんだか
ガラス細工のように
今にも壊れてしまいそう
風を編んで飛んでいった

風をまとい 一緒に空高く
飛んでいきたいんです

りんごかじり
暗い夢のなか
あなたは鳥だったかも
ちらりと笑ってわたしを
風の森に連れていって

街のはずれ
風の森で
あなたと出会ったんです

風をまとい
一緒に空高く
飛んでいきたいんです

10 うみのもり

流れる雲 にじんだ午後
記憶のそこに 沈む銀色

さあ還ろう うみのもりへ

こもればは 波にゆらぎ
はるかによせる 遠い青色

さあ還ろう うみのもりへ

あなたはどこ 遠くはなれて
あこがれ届く 時間をのぼって

さあ還ろう うみのもりへ

しおのにおい 肌なふる風
なつかしい音 ほろきこえる

さあ還ろう うみのもりへ

11 銀色の

家を出ていつもの坂道を下って
いつもの塀の上の三毛に気をとられ
車でいっぱいいつもの橋を渡り
いつもと同じ時間の電車に乗り込んだ

フラクタルな軌道に囚われ
対角線上の流れる街並み

いつもの光景
いつもどおり

駅を出ていつものコンビニで買い物
いつもの道端のク口においさつ
川沿いの小徑にいつもの夕暮れ
いつもと同じ時間に冷蔵庫を開けた

双曲線に歪んだ世界
関数のさざなみに時間のささやき

いつもの風景
いつもどおり

銀色の
銀色の
銀色の
銀色の

12 わたしはうみ

月の様に 私を満たし
星の様に 物語し
風の様に 私を狂わせ
空の様に 包み込む

わたしはうみ
揺れながら待ってる
わたしはうみ

その姿を映したい
そのかけらを取り込みたい
その呼びかけに答えたい
その色と交わりたい

わたしはうみ

震えながら待っている
わたしはうみ

13 Down By The Salley Gardens from William Butler Yeats "The Wanderings of Oisín and Other Poems"

Down by the salley gardens
My love and I did meet;
She passed the salley gardens
With little snow-white feet.
She bid me take love easy,
As the leaves grow on the tree;
But I, being young and foolish
With her did not agree.

In a field by the river
My love and I did stand
And on my leaning shoulder
She laid her snow-white hand.
She bid me take life easy,
As the grass grows on the weirs;
But I was young and foolish,
And now I am full of tears.

translated by MasudaKaoru

柳の庭の下で
ほくは出会った、いとしい人と
小さな雪のように白い足で
柳の庭を通り過ぎると彼女は言った
恋なんて簡単よ
木に葉っぱが茂るのとおなじ
でもほくは若くて莫迦だったから
彼女の言うことがわからなかった

川のほとりで
ほくは彼女と一緒にいた
雪のように白い手で
ほくの肩に触れる彼女は言った
生きるのなんて簡単
堰に草が生えちやうのと一緒
でもほくは若くて莫迦だった
今はただ涙を浮かべるだけ



- 1 ラスモア 4:15
- 2 Annie Laurie 2:41
- 3 見知らぬ雲見知らぬ街 5:35
- 4 空の晴れたときが好き 5:24
- 5 八月のまぼろし 5:02
- 6 きみとぼくがいた夏 4:49
- 7 小さなしあわせ 2:11
- 8 シルベール 2:49
- 9 かぜのもり 2:42
- 10 うみのもり 5:12
- 11 銀色の 4:15
- 12 わたしはうみ 6:51
- 13 Down By The Salley Gardens 1:57